

「親の姿勢が子に影響」

最近いろいろな場で子どもたちのことが話題にのびります。

物が豊かで、欲しい物は何でも手に入り、おいしい物を腹いっぱい食べているが、その反面、心の貧しさが目につき、礼儀をわきまえず、自制心に欠け、人に対する思いやりの心が薄れてきたといわれています。確かにそういった現象は否定できない事実でしょう。

しかし、このことは子どもに責任があるわけではなく、むしろ、子どもは被害者であるかもしれませ

ん。子どもは生まれてから一番身近な親をよく見、親のまねをし、親の考え、行為にしたがって生活習慣を身につけていくものであり、子どもに芽生える社会生活の基盤は個々の家庭生活が単位となります。したがって親の生活態度、子どもへの接し方がその子の成長に大きく影響してきます。

「子どもは親の鏡」という言葉がありますが、それだけ敏感に親の影響を受けやすいということ

です。親は責任ある立場にあるわけですので、子どもの将来を考えて二、三述べてみたいと思います。

一、しつけの大切さの再認識

しつけは「型」に入り、「型」から出ることで、すなわち、一定の生活習慣を身につけて、次に自分なりの良さを発揮できるようになる

こと、自己実現ができるようになることだと言えます。

身の周りの整理整頓、言葉遣い、挨拶などの礼儀作法などは当然身につけさせなければなりません。親が今まで生きてきた生活体験の中から得た価値観を基にしてしつけの中身を考え、子どもの手本となることが大切です。

「しつけの基本」は親が温かさで厳しき、自信と勇気をもって子どもの生活を援助する役目を果たすことですし、子どもを変えるためには親が変わることなので、もう一度親が自分の生活を見なおすことも大切ではないでしょうか。



二、生活体験を多く……

大人は頭の中で考えて納得することができませんが、子どもは経験を通して成長するものです。迷子になれば、次からは同じような間違いをしないように気をつけるようになり、自転車で転べば、どういふ場合が危険であるか体で覚えます。一回の失敗が単なる失敗に終わらず、次のステップへの肥料となります。少子化時代で子どもを大切に過ぎ、あえて冒険的なことは避けようとする傾向が感じられますが、大人になった場合に自

分の力で問題を解決できず、人に頼ったり、責任転嫁などの望ましくない現象の原因となるでしょう。

学校での諸活動、ボランティア活動、地域の社会的行事や旅行等に参加させるなど多くの生活体験をさせてやりたいものです。

身の周りの面倒をみすぎたり、勉強の世話をやいたり、雨が降れば送り迎え、忘れ物を届ける等は子どもの自主性を阻害することになります。子どもは失敗をくり返して成長しますので、親が勇気を出し、過保護にならず、自分の行動に責任を持たせることが大切でしょう。

三、物を大切にすること

まだ、使用可能な高価な自転車が野ざらしになっている光景が目につきます。まして小物に限っては想像がつきます。物をなくしても捜そうとしません。

最近、子どもへのサービスがとてよく、いとも安易に物を買って与える話のわかる親が多いように感じられます。幼児期、児童期に子どもを王様あつかいしてしまうと、中学生以後あつかいが大変になります。子どもの要求に押しきられずに、物を大切にしたり、我慢することを幼い時期から教えておかねばいけません。同時に親の衝動買いも反省しなければならぬ点かもしれません。親の姿勢で子どもは変わるものごとく一部を述べましたが、幼児期からはじめる方がより効果的でしょう。

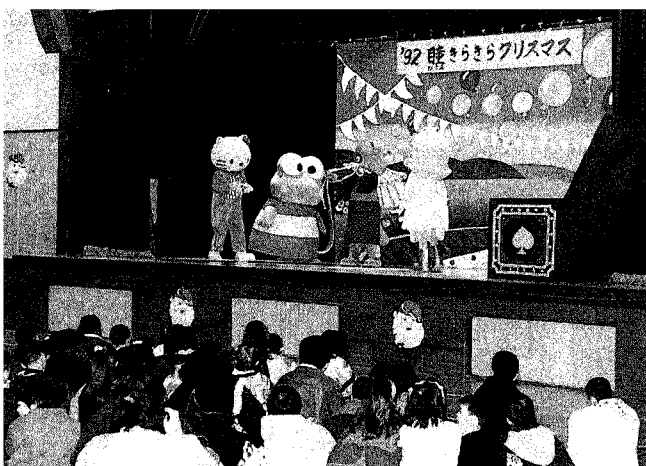
講演会と 青少年問題懇談会

日 時 1月27日(水)
午後1時30分
会 場 文化会館 大ホール
テーマ 新しい家庭づくり
「家庭の日」について
講 師 国民会議育成運動部副部長
森田 廣先生
主 催 都留市青少年総合対策本部・
市教育委員会・青少年育成
都留市民会議
後 援 青少年育成国民会議

都留市夢を創る会

「夢を創る会」では、都留市駅前18m・谷村第一小学校に10mのクリスマスツリーを飾り、

メインイベントでは「キティちゃんのおしぎなもちや箱」の公演などを行いました。当日は数多くの市民の皆様にご参加をいただき誠にありがとうございました。また、ご協賛いただきました関係各機関、各団体、また市民の皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。



来年も引き続き、微力ではございますが市民の皆様にも少しでも喜んでいただけますよう努力を積み重ねてまいります。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

事務局

☎(43) 5146 佐藤